

大人はしばしば、こわいものにお世話になっている。

例えば鬼。子どもが悪いことをすると、「鬼が来るよ。」と、鬼の力を借りて、子どもをしかる。こう聞くと、「なんだ、大人はウソつきで悪いなあ。」と思うかもしれない。

だが、こわいものに力を借りている大人もたまにはいいウソをつく。

例えば、「おへそを出してねていたら、雷様におへそをとられるよ！」というウソ。

これは実は理にかなっている言葉で、「へそを出す」ということは、おなかを出してねることであり、「かみなりがなる」ということは、雨雲が出てきて、風がつめたくなる前ぶれであり、そんな中、おへそを出してねていたら、かぜをひくから気をつけましょう、という大人のやさしさがこめられた言葉なのである。

こんな頼りにしてきたこわいものたちも、高学年の子どもになると、全く通用しない。

「鬼が来るよ。」と言ったところで、「ふーん。」と返される。

まさに、期間限定の大人の必殺技なのかもしれない。

問題一 大人がお世話になっているものは

氏名

問題二 大人はおへそを出してねていたら、どうなると子どもに言っていますか。

問題三 大人はなぜ、雷様にへそをとられると子どもにうそをつくの？

※終わったら主語述語